釧路商工会議所報

第1394号
釧路商工会議所
釧路市大町１丁目１番１
電話代表41－4141
編集兼発行人
川村　修一
印刷　釧路新聞社

会議所 新体制が始動

第4回常議員会 正副委員長など選任

第4回常議員会が11月26日（水）午前11時より道東経済センタービルで開催され、21人が出席した。今回は第39期役員が選任されて以降初めて開かれたもので、委員会構成や顧問・参与の委嘱などが承認され、会議所活動の推進に向けた新体制が整った。

冒頭、栗林定正会頭は釧路地域の課題が山積する現状に触れ「商工会議所として強い危機感を持って行動し、次世代に誇れる活力ある釧路の未来を築いていかなければならない。地域経済発展のためご協力賜りたい」とあいさつした。

改選後はじめて行われた常議員会

その後の議事では、会議所活動の推進役となる5つの委員会（総務財政、地域開発、中小企業、都市イメージアップ、政策）と2つの特別委員会（鉄道高架事業推進、釧路港国際バルク戦略港湾推進）の組織構成について審議が行われ、議員の委員会配属が決定。各委員会における正副委員長は、栗林会頭より27人を提案し、満場一致で承認された。

また、顧問および参与については、10月末で当所役員・議員を退任された村井順一氏（村井建設㈱代表取締役会長）、島本幸一氏（島本鉄工㈱代表取締役会長）、中島太郎氏（大栄産業㈱代表取締役社長）の3人を新たに加えた顧問15人と参与1人への委嘱が承認された。

【顧問・参与】（敬称略）

▽顧問　鶴間秀典（釧路市長）、寺田宏（釧路総合振興局長）、畑山朗（釧路開発建設部長）、浜野晶午（釧路財務事務所長）、佐々木俊和（日本銀行釧路支店長）、栗林延次（元副会頭）、佐藤悦夫（同）、小船井修一（同）、村井順一（同）、金安伸一（元常議員）、島本幸一（同）、中島太郎（同）、小林進（王子マテリア㈱執行役員釧路工場長）、星匠（㈱釧路新聞社代表取締役社長）、三宅康夫（㈱北海道新聞社釧路支社長）

▽参与　濱屋重夫（元専務理事）

30周年の節目祝う

釧路商工会議所青年部 記念式典・祝賀会を挙行

青年部（＝釧路YEG尾越亮介会長）の創立30周年記念式典が11月15日（土）午後3時より釧路セントチュリーキャッスルホテルで開催され、会員・OBや来賓、全国各地のYEGメンバーら約300人が出席した。

約300人が出席した記念式典

釧路YEGは平成6年11月7日に発足し、釧路地域の豊かで住みよい郷土づくりに貢献すべく、地域経済の活性化策や政策提言などの活動を続けている。

30周年事業の実施にあたっては、実行委員会（吉田勝幸実行委員長）を立ち上げ『Future Creation HI／Story～過去からの物語を繋ぎ、新たな未来を創造しよう～』のスローガンのもと準備を進めてきた。

記念式典は、釧路YEG30年の軌跡を紹介するオープニング映像で幕を開け、その後の主催者代表あいさつで尾越会長は「釧路を良くするため行動してきた諸先輩方の想いがあって今の釧路YEGがある。我々は地域の先駆けとして次世代へ希望のバトンをつないでいく」と想いを語った。

また来賓を代表して、鶴間秀典釧路市長、東貴弘釧路総合振興局副局長、栗林定正当所会頭、菊池孝一日本商工会議所青年部副会長から、式典開催のお祝いと今後の活躍を期待する激励の言葉が寄せられた。

あいさつする尾越会長

引き続き、感謝状の授与が行われ、尾越会長より第9～16代の歴代会長を務めた8名（濱屋宏隆氏、佐々木隆哉氏、安達広輔氏、安田正二氏、山下徹也氏、池田一己氏、吉田勝幸氏、阿部将和氏）に、これまでの活動の功績を記した感謝状を贈呈した。

式典の最後には、吉田実行委員長が30周年記念事業として検討している『ハーバープロジェクト構想』を報告。幣舞橋の景観を活かしたリバーサイドの活性化を通じ一年中人が訪れる街づくりを目指すと説明した。

式典終了後には、祝賀会が開かれ、節目を盛大に祝った。

釧路短大の機能維持を

市へ短期大学部設置要望

当所では、釧路短期大学（＝釧路短大）が来春以降の学生募集の停止を発表したことを受け、2日（火）に釧路市役所を訪問し、教育機能を釧路公立大学（＝公立大）へ継承し『釧路公立大学短期大学部』として再出発させるとともに、将来的に短期大学部を発展的に再編し、理工農系学部を増設するよう要望した。

鶴間市長（右）へ要望書を手渡す栗林会頭

当日は、栗林定正会頭、濱屋宏隆副会頭、白崎義章副会頭、森村好幸副会頭、杉村荘平地域開発委員長が出席。栗林会頭が鶴間秀典市長へ要望書を手渡し、地域経済の維持・発展や未来を担う人材育成と定着、そして人口減少に歯止めをかけるためにも、迅速な対応を強く求めた。

釧路短大は、長きにわたり道東の人材供給源として機能し、卒業生の釧路管内における就職率は10年平均で85％にのぼる。その多くが幼児教育や医療分野従事者などのエッセンシャルワーカーとして地域を支えており、この機能の喪失は、釧路短大への進学希望者の流出だけでなく、エッセンシャルワーカー不足を招き、若年層や子育て世帯の流出、人手不足の深刻化など〝負のスパイラル〟を引き起こすと懸念されている。

そのため、本要望では釧路短大の機能喪失による社会的・経済的影響は、財政負担では計ることのできない損失であり、この負担は高等教育機関の維持に対する〝未来への先行投資〟と捉えるべきと訴えた。

要望に対し鶴間市長は「資金的な目途が立てば、令和9年度に公立大への短期大学部設置を進めたい。経済界にも力添えいただきたい」と応えた。

セミナーのご案内　受講無料

会社と従業員を守る　カスハラ対応策

近年、社会問題となっているカスハラは、就業環境に悪影響を及ぼしメンタル不調や離職の大きな要因になっています。本セミナーでは、カスハラへの未然防止や早期解決に向けて会社がとるべき組織的対策について解説します。

日 時：令和8年1月19日(月)14:00～16:00
会 場：道東経済センタービル5階　会議室
定 員：30名(先着順)
講 師：横浜リンケージ社労士事務所　代表　蔵中 一浩 氏

主な内容
・カスハラとは～カスハラとクレームの違い～
・場合に寄っては従業員・パート等から訴えが！？
　カスハラが企業やお店・従業員等に与える影響と対策の必要性を改めて考える
・カスハラ対策の具体的取組み
　①基本的枠組み　②従業員への周知・啓発
　③相談対応体制の整備　④対応手順の策定
　⑤その他予防・解決のために取り組むべきこと

詳細・お申込みはホームページへ⇒

【お問合せ】
地域振興部0154－41－4143

年収の壁対策学ぶ

社会保険労務士 石井氏が解説

『年収の壁対策』セミナーを11月12日（水）午後1時30分より道東経済センタービルにて開催した。

本セミナーは、社会保険労務士の石井隆介氏（社会保険労務士法人湘南経営パートナーズ代表社員）を講師に迎え、税制や社会保険の改正、公的支援策や企業での対策などについて解説した。

はじめに石井氏は、年収の壁について短時間労働者の社会保険への加入要件が今後、段階的に拡大されることを説明。また、基礎控除・給与所得控除の引き上げや大学生年代を扶養する世帯の税負担軽減のため新設された『特定親族特別控除』について解説し、今年は年末調整で対応する必要があると述べた。

また、扶養範囲内で勤めるパートやアルバイトがその上限額を超えた際の対応策について「収入が残業等により一時的に増えてしまった場合は、事業主がその旨を証明することで扶養を継続することができる」と話し、例題を用いて一時的な収入変動に係る証明書の記入方法や注意点などを補足した。

次に、人材確保に向けて『限定正社員』を導入することで、勤務地の限定や短時間勤務などニーズに沿った多様な働き方に対応でき、採用の幅が広がるとともに、助成金の活用も可能になると説明。「限定正社員を導入する際は経営者が従業員へ制度やメリットなどを説明することが重要」と伝えた。

年収の壁について解説する石井氏

最後に石井氏は生産性向上のポイントについて「主作業とその他の付随する業務で区別化し、作業効率を図ることがカギ」と説明した。

釧路港の活用をPR

釧路港ポートセミナー 札幌市で開催

釧路市や釧路港湾協会、当所などが主催する『釧路港ポートセミナー』を11月28日（金）に札幌市内で開催し、釧路港の概況やトラック輸送の現状などをテーマに釧路港をPRした。

冒頭、鶴間秀典釧路市長があいさつした後、釧路市水産課港湾部の中村昌克次長が釧路港の概況や昨年就航した内貿コンテナ航路などを紹介。

続いて、（公社）北海道トラック協会の木野博之常務理事が、同協会や経済産業省による調査結果をもとに、ドライバー不足の現状や時間外労働の規制に伴う輸送力不足の影響が顕在化していると解説。

今後は各輸送手段の連携が重要で、陸・海・空すべて揃っている釧路が結節拠点として選ばれる必要があると強調し「釧路港を起点とした配送には、ストックポイントの整備が重要」と話した。

札幌で行われたポートセミナー

また、北海道文教大学地域創造研究センターの小磯修二センター長が釧路港の可能性と将来展望をテーマに講演。北米・北極海航路に近い地理的優位性や、ひがし北海道地域の産業を支える物流拠点としての可能性、日本における観光産業の影響力など釧路地域のポテンシャルを示した。

また、道内物流の現状を踏まえ「苫小牧港への一極集中ではなく、道東地域を核とした釧路港の役割を考え、長期戦略構想を議論していくことが肝要」と述べた。

閉会挨拶で栗林定正当所会頭は、道東自動車道が全線開通し釧路の交通ネットワークが向上した点などに触れ「変化する環境の中でも、釧路港は道内輸送に貢献できる。ぜひ活用してほしい」とPRした。

経営安定化へ向け要請

中小企業委員会 柔軟な支援求める

中小企業委員会（佐藤尚彦委員長）は5日（金）、市内金融機関や信用保証協会の計11か所へ、栗林定正会頭と佐藤委員長の連名による要請書を手交した。

現在、中小企業・小規模事業者は物価高騰や賃金の上昇、コロナ関連融資の返済などによる厳しい経営環境に加え、事業の発展に係る資金確保が課題となっている。

その現状を踏まえ、当委員会では毎年、金融の円滑化や事業継続のための長期的な支援を要請しており、今回は佐藤委員長をはじめ、佐々木勉副委員長、米本富夫副委員長らが参加した。

㈱北洋銀行釧路中央支店では、佐藤委員長より釧路金融協会の本間剛会長（同支店長）へ「各事業者の需要に応じた円滑な金融の取り扱いや各保証の活用、資金繰り支援など、長期的な金融支援をお願いしたい」と協力を求めた。

要請書を手渡す佐藤委員長（左）

本間会長は「地域の各金融機関が一体となり、年末年始を含めしっかり支援していく」と要請に対し前向きに応えた。

北海道事業承継・引継ぎ支援センター
釧路サテライトのご紹介

当センターは、経済産業省北海道経済産業局から委託を受けて開設された公的機関です。札幌本部のほか当所を含む全道８カ所にサテライトが設置されています。
全道各地の商工会議所や各支援機関・行政機関・金融機関等が連携し、事業承継・引継ぎを**無料**、**秘密厳守**、**公平中立な立場**のもと、ワンストップで支援します。

■事業承継には、
ご親族へ引き継ぐ「親族内承継」
従業員へ引き継ぐ「従業員承継（MBO）」
第三者へ引き継ぐ「第三者承継（M&A）」
など、様々な方法があります。

このようなお悩みをお持ちの方はぜひ一度ご相談ください

後継者がいない…	親族に事業を継がせたい	事業承継って何をしたらいい?	個人事業主でも相談できる?
第三者承継を検討したい	借入金があっても大丈夫?	創業希望者とマッチングしたい	
事業承継計画はどう作る?	従業員や役員に事業を継がせたい	どこに相談したらいい?	

詳しくはHPへ

お申込み・お問合せは　0154-41-4143
北海道事業承継・引継ぎ支援センター釧路サテライト（当所経営相談課内）

新規入会者 紹介（敬称略・受付順）

令和7年5月27日～11月25日 入会

- (特非)和
- 保育テラスPop-Hagu
- 着付教室　和Life
- A´S ARMY
- BellQuads
- ㈱ティーダ
- (一社)くしろまちづくり研究所
- 釧商ミニポンプ圧送
- (一社)太陽とひまわり
- 藤城建設㈱
- (宗)厳島神社
- MIYABI
- 片島鉄工㈱

年末年始休業のお知らせ

【休業期間】12/27(土)～1/4(日)

年内の営業は、12月26日(金)17:25で終了し、年始は明年1月5日(月)9:00より営業を開始いたします。

【お問合せ先】
経営相談は地域振興部へ　0154-41-4143
その他業務は総務部へ　0154-41-4141